

(1)児童の体力の現状

○上体起こしにおいて、男女ともに全国平均を上回っている学年が多い。特に5年女子は全国平均と比較して6.7ポイントと、大きく上回っている。
○5年生の20mシャトルランにおいて、男女ともに全国平均を上回っている。特に女子は全国平均と比較して5ポイント以上、上回っている。
○5年生の意識調査において、「運動が好き」「体育の授業は楽しい」「先生の個別指導でできるようになった」「体育の授業で助け合う活動を行っている」に肯定的な回答をした児童が、男女ともに全国平均を上回っている。

●ソフトボール投げにおいて、男女ともに全国平均を下回っている学年が多い。学年によっては平均との差が大きい学年もある。
●5年生の握力において、男女ともに全国平均を下回っている。特に女子は全国平均と比較して2.6ポイント下回っている。
●5年生の意識調査において、「体育の授業の目標が示されている」「体育の授業で振り返る活動を行っている」「体力向上の目標を立てている」に肯定的な回答をした児童が、男女ともに全国平均を大きく下回っている。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

○年間指導計画に基づいた「指導内容系統表」や「古志原小体育バイブル」などを活用することで、体育科における指導教員の指導力向上が図られたとともに、指導内容の充実にもつなげることができた。
○競技用のマットの購入などの備品の拡充を図り、授業の質向上を図ることができた。
○児童会が主催する「スポーツ大会」の実施等を通して、休み時間に体を積極的に動かそうとする児童数と意識が高まった。

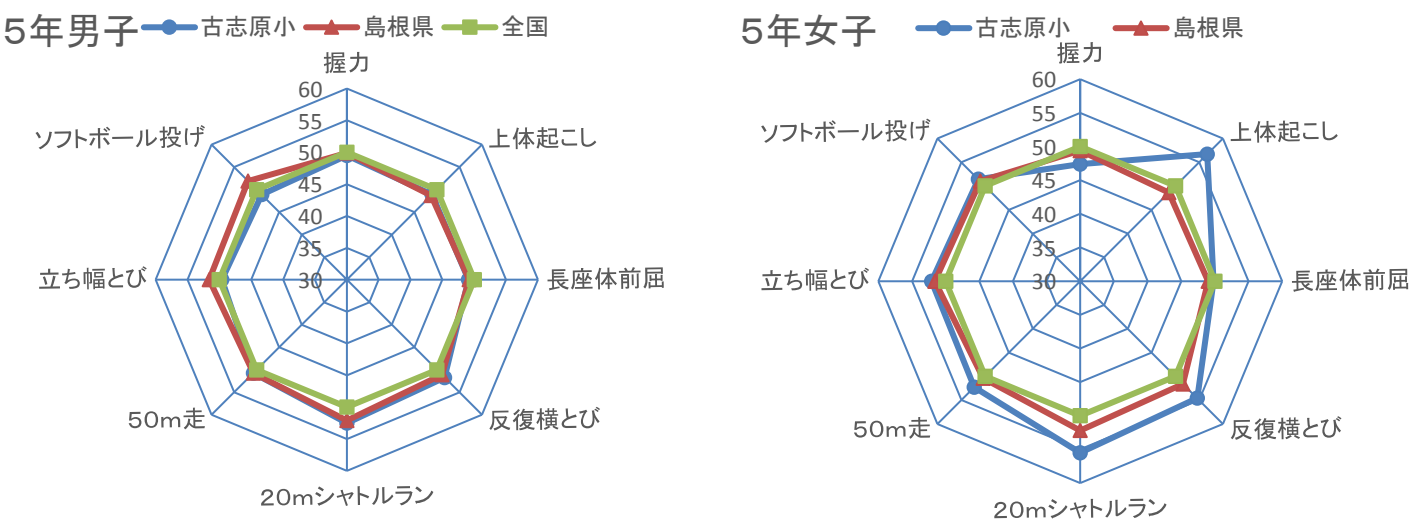
●4年生における鉄棒運動(逆上がり)実技習得状況調査において、逆上がり達成率が71.6%であった。これは、昨年度と比べ、10%以上下がっている。来年度に向けて、授業改善などを図っていく必要がある。
●体力・運動能力調査において、「週に2回以上運動をする」児童が低学年に多い傾向が変わらなかった。低学年が遊びの中で運動をして、好きになるような取組が必要であると感じ、そのために、来年度も引き続き、備品の整備や授業の質向上を計画的・積極的にしていきたい。

(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
- ・「ボール運動」に重点を置き、職員研修や実践事例の伝達、指導内容系統表の積極的な活用等を通して授業改善に取り組み、児童が投げの力を身に付けられるようにする。
 - ・校内体育部を中心として、鉄棒運動について重点的に取り組み、具体目標の改訂も含め、2年度も継続していく。児童が鉄棒に触れる機会を増やすため、折りたたみ式鉄棒のさらなる活用、パットや「くるりんベルト」等の備品の整備を行っていく。
 - ・これまでも重点的に取り組んできた五種目歩走についての取組を継続し、基礎の定着を図る。
 - ・児童会主催のスポーツ大会を積極的に実施し、児童が「運動する楽しさ」に触れることができるようにする。
- ②地域や家庭との連携による取組
- ・学校での遊びや運動の様子を地域や家庭に向けて発信するとともに、運動の啓発を行う。
 - ・各学年行事にスポーツを取り入れ、親子で楽しく運動ができる場を設定するために必要な情報の発信を図る。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
- ・学校保健委員会で「食」をテーマに、児童の実態から課題を見出し、健全な食習慣の定着を目指した取組を行う。
 - ・小中一貫教育での食に関する指導(「手作り弁当の日」等)の取組を継続する。

調査実施者数(人) 1年(男子55・女子48) 2年(男子56・女子51) 3年(男子48・女子47)
4年(男子55・女子48) 5年(男子48・女子57) 6年(男子51・女子49)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

